

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	柳田 勝
2-3	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
実績値						41,278	40,483				
②青少年人口			見込値	人		6,270	6,250	6,200	6,180	6,130	
						実績値	6,692	6,450			
		見込値									
					実績値						
		心豊かにたくましく育っている。	①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合	%		目標値	47.0	48.0	50.0	51.0	53.0
						実績値	52.7	46.6			
②コミュニティスクール参加人数			人		目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	
					実績値	1,833	1,831				
③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数			店舗		目標値	127	129	131	133	135	
					実績値	118	113				
					目標値						
					実績値						
				目標値							
				実績値							
成果指標設定の考え方	心豊かにたくましく育っている成果指標については、①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合をアンケートにて調査。また、土曜日の活用の一環として実施している地域教育力推進事業(②コミュニティスクール)参加者人数を把握。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数の把握。										
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の①桜川市人口は、毎年10月1日の常住人口。②青少年人口は、毎年4月1日の住民基本台帳による20歳未満の市民より求める。○①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティスクール参加人数は、各コミュニティスクール実績報告より求める。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数は、「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数実績報告より求める。										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、平成29年度は52.7%でしたが、平成30年度は46.6%と6.1ポイント減少している。真壁地区小学校、羽黒小学校で実施しているコミュニティスクールについては、参加者数に大きな変化はない状況です。「青少年の健全育成に協力する店」の登録店舗数は、平成29年度が岩瀬地区49店舗、大和地区16店舗、真壁地区53店舗、計118店舗、平成30年度は、岩瀬地区47店舗、大和地区14店舗、真壁地区52店舗、計113店舗となり、5店舗減少しています。減少の理由としては、コンビニ等の普及により、タバコの専売店等、その他の理由により店舗が閉店したことが挙げられます。実績値としては低下しているが、現状の成果としてはほとんど変わっていないと考えられる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を1.4ポイント下回った。 ②コミュニティスクール参加者については31人目標値を上回った。 ③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数については、16店舗、目標値を下回っている。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
○青少年の健全育成において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・はたちの集い…はたちの集い実行委員会(新成人で構成)を中心とし、式典内容、構成を決定し式典を運営していくことで、形にとらわれない、オリジナルな式典の挙行がされている。参加率は77%は超えている。 ・わくわくチャレンジ、コミュニティスクール…それぞれの事業をおとして様々な体験・交流・学習活動を充実することができた。また、参加者数も継続し実施できている。 ・家庭教育学級…県より社会教育主事の派遣を受けて現職の教職員の実績と経験を活かして、家庭教育の充実に向け保護者の方へ熱意ある講演を実施することができた。次年度へも継続し啓発を図る。	・少子化により、新成人を迎える人数が減少していることから、参加率を今以上に向上させる。はたちのつどい実行委員の選任が難しくなっていることから、今後、検討が必要である。また、成年年齢の引き下げにより対象者についても市の方針の検討が必要と思われる。 ・青少年育成市民会議の事業でいばらき教育の日・教育月間推進事業 地域推進大会の開催地となるため事業の充実をより図る。 ・家庭教育の充実へ向け対象者の拡大のため多方へ向け実施していく。